

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成29年10月23日※1
(前回公表年月日:平成28年10月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
名古屋ウェディングアンドブライダル専門学校	平成25年3月28日	阿知和 聖二	〒451-0042 愛知県名古屋市区那古野2-13-12 (電話) 052-541-3300																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人三幸学園	昭和60年3月8日	屋間 一彦	〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
商業実務	商業実務専門課程	ウェディングプランナー科		平成27年文部科学省告示第13号	-																						
学科の目的	「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、学校教育法に基づき、ブライダル業界の関連分野において、活躍する人材を育成するため、必要とされる知識と技能を教授することを目的とする。																										
認定年月日	平成28年2月19日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	62	41	48	10	-	-																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
160人	123人	0人	22人	7人	29人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価は5点法 評価方法は期末試験という形態ではなく、授業内評価																							
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月21日～4月10日		卒業・進級条件	所定の修業年限以上在籍し、所定の単位時間数の単位を取得した者について卒業認定。 科目の認定基準は、学年評定2以上、3分の2以上の出席。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、三者面談、校内カウンセリング		課外活動	■課外活動の種類 海外研修、ボランティア活動 ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) ウェディングプランナー・ブライダルコンセルジュ・サービススタッフ・ホテルブライダルスタッフ・ウェディングパトラー ■就職指導内容 就職ガイダンス、履歴書・面接指導、個別相談等 ■卒業生数 52 人 ■就職希望者数 48 人 ■就職者数 48 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 92.3 % ■その他 ・進学者数: 1人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>アシスタントブライダルコーディネーター検定</td><td>③</td><td>52人</td><td>51人</td></tr><tr><td>ブライダルプランナー検定</td><td>③</td><td>52人</td><td>49人</td></tr><tr><td>レストランサービス技能検定</td><td>③</td><td>19人</td><td>13人</td></tr><tr><td>ブライダルフラワーアレンジメント</td><td>③</td><td>55人</td><td>55人</td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するが記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	アシスタントブライダルコーディネーター検定	③	52人	51人	ブライダルプランナー検定	③	52人	49人	レストランサービス技能検定	③	19人	13人	ブライダルフラワーアレンジメント	③	55人	55人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
アシスタントブライダルコーディネーター検定	③	52人	51人																								
ブライダルプランナー検定	③	52人	49人																								
レストランサービス技能検定	③	19人	13人																								
ブライダルフラワーアレンジメント	③	55人	55人																								
中途退学の現状	■中途退学者 9 名 平成28年4月1日時点において、在学者111名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者102名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・個人面談を実施し、個々の悩みを早期に発見、解決する。 ・欠席が続く生徒については、早い段階で保護者へ電話連絡をして保護者の協力を仰ぐ。 ・入学前と入学後のギャップを埋めるため、入学直前に入学予定者向けと保護者向けに学校生活や実習、就職に関する説明会を実施している。		■中退率 8.1 %																								

<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度 ■専門実践教育訓練給付： 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>http://www.sanko.ac.jp/nagoya-bridal/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行ない、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。

委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や 授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

またより正確に業界における動向や求められる人材要件を把握するため、生徒の就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と関係性を高め、幅広く連携を図ることで、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。実習先である企業に対し、アンケート等を実施することにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらのことにより得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会構成員は名古屋ウェディング & ブライダル専門学校と企業関係者等の役職者から成るものとし、審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

【教育課程編成の基本方針決め・前年の問題点抽出】

企業関係者等の外部委員より、専攻分野に関した動向や新たに必要となる人材スキル等の業界の実情をヒアリングし、委員会で協議をし、次年度の教育課程編成の基本方針を決める。

さらに、前年度の問題点をピックアップし、企業関係者等の外部委員からの見識のある改善意見も集約する。

↓

【教育課程編成の科目詳細決め】

委員会構成員の中の名古屋ウェディング & ブライダル専門学校教員によって、各科目の詳細を決定し、また、集約した改善意見も教育課程に反映させ、次年度の教育課程の仮案を完成させる。

↓

【WB委員会(各ウェディング & ブライダル専門学校代表教員による分野会議)にて教育課程編成の決定】

委員会構成員の中の名古屋ウェディング & ブライダル専門学校教員による教育課程の仮案に基づいて、再度、WB委員会で協議をし、次年度の教育課程を決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

H29.4.1現在

名前	所属	任期	種別
林 一馬	全米ブライダルコンサルタント協会	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	①
田口 真理子	株式会社クレールコーポレーション	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日	③
山内 朝子	学校法人三幸学園 名古屋ビューティーアート専門学校		副校長

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の開催頻度等

毎年、年に2回実施するものとする。ただし、委員が緊急に教育課程の改善が必要であると判断した場合には、随時、委員会開催を申し入れることが出来るといった弾力的な体制を取っている。

【実績】

第1回 平成29年7月12日(水)

第2回 平成30年1月24日(水) 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

企業が求める実践力を備えた人材へ向けて「現場が求める社会人基礎力」の育成観点及び今後必要になってくる要素としてコミュニケーションスキルの向上等の意見について、各授業での生徒指導方針への追加を実施。

業界の課題である離職率の問題については、第2回委員会にて追加原案を説明、ご意見を討議し三幸学園教育体系(社会人基礎力生徒指導マニュアル)に平成27年6月より項目追加。夏の全体会議にて全講師へ指導ポイントの説明を実施。主に就職対策にてシラバスを変更。

今後更なるカリキュラム(教育課程)の編成に向けて取り組んでいる。なお、平成29年度生よりカリキュラム変更を行うべく検討委員会を設置。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

基本方針として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNO1のプランナーを育成する」という本校人材育成方針のもとブライダル業界等との連携で実践的かつ専門的な職業教育を実践していくこと。

ブライダル業界においては知識と接客力が重要であるということ是不変のものであり、双方を兼ね備えることで長く業界で活躍することで、業界の発展にも繋がっていくことから、本校教育理念である「技能(知識・技術・理論)」と「心(人間教育・対人基礎力)」の調和をもとに授業計画から本校教員も参加し、「技術・理論の習得レベル」及び「マナー」・「コミュニケーション」など現場に即した内容を検討、そして定期的に授業の振り返りを行い継続的かつ改善工夫を実施している。

企業等と連携することで、より早く現場の変化や課題に対する対応及び教育への反映し、本校そして業界の求める「人材の育成」に貢献できると考える。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

授業科目「着付け」において1年間の授業を通して実施。ブライダル業界において企業の方より、実践力を想定し、日本古来より婚礼に欠かせない「着物」に関する知識・技術を習得。そして授業を通してブライダル業(サービス業)に欠かせない挨拶・マナー・言葉づかいなどの礼節並びに振る舞い・行動など所作を身につける。

定期的に授業内での内容・実技試験などを含め、振り返りを実施し、企業様からの評価を成績評価に反映させる。また、定期的に授業シラバスや1年間の流れ・生徒の様子を共有し、改善点等協議している。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
着付け	日本における美容文化である着付けの技術を学ぶことで卒業後の仕事の幅が広がり、活躍の場も増える。授業では技術はもとより礼節や所作などを現場の方から毎週継続して学ぶことで、接客スキルを向上させる。日本の美容文化への意識及び技術習得の必要性を認識し、向上心を養う。	ピアスグループ クレディアワールド株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、ブライダル業界・教育業界を担う「素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで社会に貢献できる人材」・「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNO1のプランナー」を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、以下のとおり教員研修の環境を整える。

- ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修
- ・指導力の修得・向上のための研修
- ・アクティブラーニングの手法を取り入れた教育方法の研修

なお、当該研修等を計画的に教員に受講させるにあたり諸規定に定められている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- 1) 『ブライダルの今後と求められる人材』について(平成29年8月23日)
- 2) 『ウェディング業界最新状況・専門学校生に求めていること』について(平成29年9月20日)

② 指導力の修得・向上のための研修等

- 1) アクティブラーニングの手法を取り入れた教育方法1(平成29年4月3日)
- 2) 教務研修(クラスマネジメント研修/気づく・聴く・見逃さない&伝える研修)(平成29年8月3日)
- 3) アクティブラーニングの手法を取り入れた教育方法2(平成29年9月20日)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- 1) 「2016年欧米ウェディングトレンド総まとめ」「LGBTウェディング」「米国トップウェディングデザイナー/プランナーを徹底分析」について理解を深める。(平成29年12月予定)

② 指導力の修得・向上のための研修等

- 1) 指導力向上研修(10月～1・2回/月)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、プライダル業界の企業様や卒業生・地域団体住民・高校関係者等と共に、学校関係者評価委員会を設置して、当該専門分野における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その結果を次年度の教育活動及び学校運営の改善の参考とする。
 学校関係者評価は、「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。また、評価結果は学校のホームページで公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1) 教育理念・目標

【意見】良い教育をしているので、もっと地域の方にもわかっていただけるように発信をしていくべき。今は何を勉強している学校が分かりづらい。

【活用状況】1階エントランスに外へ向けてビジョンポスターを掲示する。朝の挨拶運動でも近所の方へもしっかり挨拶をして、地域に根づく学校を目指す。

(3) 教育活動

【意見】プライダル業界としての動きも早く、学生時代学んだことも社会出たらずで変わっているなどもあるので、常にプライダル業界の情報を得るようにしないとけない。

【活用状況】研修なども通じて全教員が業界理解を深めている。また担任教員においては、企業との関係強化を図ることを目的として、数多く企業への訪問をして業界の動きを理解していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
松永 宏美	合同会社 マリア	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	企業等委員
大塚 淳夫	有限会社 ビバーチ	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	企業等委員
家田 登美子	富久屋	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	校長が必要と認める委員
山内 朝子	学校法人三幸学園 名古屋ビューティーアート専門学校		副校長

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 平成29年7月7日公開

<http://www.sanko.ac.jp/disclosure/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に則って情報提供を実施することで、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につながる。

また、入学希望者やその保護者に対し、進路選択にあたっての有用な情報を提供すると共に、一人一人の能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。

そして、キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習、就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	●三幸学園について(事業案内、経営理念、歴史)
(2) 各学科等の教育	●三幸学園の教育 ●学科・専攻紹介 ●資格・就職
(3) 教職員	●講師紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	●企業・地域のつながり ●インターンシップ
(5) 様々な教育活動・教育環境	●施設紹介 ●特別ゼミ
(6) 学生の生活支援	●サポートシステム ●学生寮・一人暮らし
(7) 学生納付金・修学支援	●募集学科・学費 ●学費サポート制度
(8) 学校の財務	●監事監査報告書 ●資金収支計算書 ●消費支出計算書 ●貸借対照表 ●財産目録
(9) 学校評価	●自己点検自己評価・学校関係者評価委員報告書
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.sanko.ac.jp/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ウェディングプランナー学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ブライダル知識Ⅰ	婚礼の歴史や挙式・披露宴の基礎知識を学び、「アシスタントブライダルコーディネーター検定」取得を目指します。	1年	33	2	○			○		○		
○			パーソナルカラー	ファッションコーディネートの現場で即戦力となるように、色に関する知識、法則、技法を理論的かつ実践的に身に付ける。	1年	33	2	○			○		○		
○			ブライダルビジネスマナー	敬語の使い方、履歴書の書き方やビジネス文書の書き方など、社会人としての考え方ははじめ、ルールやマナーを学ぶ。	1年	33	2	○			○			○	
	○		ベーシックメイク	ベーシックメイク検定対策、基本的なメイクの手順、骨格や肌の構造等を学びフルメイクの基礎メイクテクニックを学びます。	1年	99	6	△	○		○		○	○	
○			パソコン演習Ⅰ	検定取得を目指し、基本的な入力方法から書類作成など、パソコンの技能を習得。ブライダル業界で必要なパワーポイントや案内状等の作成を学ぶ。	1年	66	4	△	○		○			○	
○			ブライダルプロジェクトⅠ	日頃の授業のアウトプットとして現場体験ができる行事を取り入れ、企画立案施行の全てが出来るようにする。	1年	66	4	△	○		○			○	
○			未来デザインプログラムⅠ	ビジネス書の「7つの習慣」を教材に用い、7つの項目を習慣化することにより成功する為の力を養う。	1年	33	2	○		○	○			○	
○			パーティプロデュース	挙式・披露宴の進行やテーマウェディングの創り方などを学びます。全体の構成から演出、会場コーディネートまでトータルでプロデュースできる力を養います。	1年	66	4	△	○	○	○			○	
○			フラワーアレンジ	ウェディングに人気の花の種類・値段・ブーケ・装花のスタイルと作成技術を学ぶ。	1年前期	48	3	△	○		○			○	
合計					科目		単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ウェディングプランナー科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ドレス デザイン	『認定ドレスコーディネーター』検定の取得を目標にドレススタイリストに必要な技術・知識を学ぶ	1年	66	4	○	△		○			○	
○			ホームルーム	検定や行事等のスケジュール確認や伝達事項の確認を行う。	1年	33	2	○			○		○		
○			空間 コーディネイト	会場・テーブルコーディネート・イメージ分類などブライダルデザインに繋がる知識や技術を学ぶ。	1年前期	16	1	○	△		○		○		
○			ブライダル セールス	新規接客・アンケート記入・質問・顧客心理・館内案内・敬語等、設定した客層への対応方法を学びます。	1年	33	2	○	△		○			○	
○			ペン字	日常的な文字を綺麗に書く事により、履歴書をはじめ、書類を専門的な技術、知識をもって書けるようにする。	1年前期	16	1	△	○		○			○	
○			ブライダル 演習Ⅰ	挙式・披露宴の基礎知識、社会人に必要なビジネスマナーを学びます。また演習を通し、現場スタッフに必要な実践力を身に付けます。	1年前期	64	4	△		○	○			○	
○			マーケティング	ブライダル業界の動向とお客様のニーズを研究・発表する。	1年前期	16	1	○			○		○		
○			ブライダル 演習Ⅱ	挙式・披露宴の基礎知識、社会人に必要なビジネスマナーを学びます。また演習を通し、現場スタッフに必要な実践力を身に付けます。	1年後期	68	4	△		○	○			○	
○			プレゼン・コ ミュニケー ションⅠ	社会人になるにあたり必要なプレゼン能力・コミュニケーション能力を高める。	1年後期	17	1	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ウェディングプランナー科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		ブライダルプランナー検定Ⅰ	基本的な日米欧のブライダル市場の知識を学び、全米ブライダルコンサルタント協会が認定する「ブライダルプランナー検定2級」取得を目指します。	1年後期	51	3	○			○				○
	○		ブライダルアテンド	プランナー・キャプテン・介添え等の当日の動きと心構えを学び、具体的なアテンド方法をロールプレイングを通して学びます。	1年後期	34	2	△	○		○				○
	○		レストランサービス検定対策Ⅰ	国家資格「レストランサービス技能検定3級」取得を目標に「おもてなしの心」を大切にした接客サービスのノウハウや料飲知識・法律を学びます。(学科試験対策)	1年後期	34	2	○			○				○
	○		レストランサービス演習Ⅰ	ホテルで働く人のための国家資格「レストランサービス技能検定3級」取得を目標に、適切なサービスを行えるよう、しっかりとした技術を修得いたします。(実技試験)	1年後期	34	2		○		○				○
	○		ホテル概論Ⅰ	ホテル業に対する正しい知識を持つことを目的とし、組織や業務の特徴とは何かなどといった基本知識の理解を深め、ホテル産業やホテルという業種に対する深い知識を学びます。	1年後期	17	1		○		○				○
○			ブライダル知識Ⅱ	婚礼の歴史や挙式・披露宴の基礎知識を学び、「アシスタントブライダルコーディネーター検定」取得を目指します。	2年	50	3	○			○				○
○			パソコン演習Ⅱ	検定取得を目指し、基本的な入力方法から書類作成など、パソコンの技能を習得。ブライダル業界に必要なパワーポイントや案内状等の作成を学ぶ。	2年	66	4	△	○		○				○
○			ブライダルプロジェクトⅡ	日頃の授業のアウトプットとして現場体験ができる行事を取り入れ、企画立案施行の全てが出来るようにする。	2年	66	4	△	○		○				○
○			ベーシックヘアアレンジ	一束やピンニング、ホットカーラーや編み込み等ヘアアレンジの基礎からベーシックなアップスタイルを学びます。	2年	66	4	△	○		○				○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ウェディングプランナー学科)平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			着付け	着物の基本的な着付・畳み方・帯などの名称を学び、着付検定3級の取得を目指す	2年	66	4	△	○		○			○	○
○			映像・音響・照明	プランナーとしての音響・照明・映像へのアプローチ方法や打ち合わせ方法やそれぞれのプロのテクニックを学ぶ。	2年後期	34	2	△	○		○		○		
○			商品企画プロジェクト	テーマに沿った企画立案プレゼンテーションを実施。各会場の概要を研究しセールポイントやエリアにおける平均コストなどを把握した上で企画立案・プレゼンテーションを実施。	2年後期	51	3	○	△		○		○	○	
○			ブライダル演習Ⅲ	挙式・披露宴の基礎知識、社会人に必要なビジネスマナーを学びます。また演習を通して、現場スタッフに必要な実践力を身に付けます。	2年前期	64	4	△	○		○		○		
○			成功の法則Ⅱ	ビジネス書の「7つの習慣」を教材に使い、7つの項目を習慣化することにより成功する為の力を養う。	2年前期	16	1	○			○		○		
	○		ブライダルプランナー検定Ⅱ	基本的な日米欧のブライダル市場の知識を学び、全米ブライダルコンサルタント協会が認定する「ブライダルプランナー検定1級」の取得を目指します。	2年前期	48	3	○			○			○	
	○		ハウスセールス	接客する際の基礎知識やマナー、館内を案内する際の基本動作などをロールプレイングを通して学びます。また、顧客心理やコミュニケーションスキルについてもトレーニングします。	2年	66	4	○	△		○			○	
	○		オリジナルプランニング	挙式演出やハウス会場をテーマにしたパーティ演出を学びます。お客様のオーダーに対して、適切なプランや演出をご提案できるように企画力を養います。	2年	66	4	△	○		○		○		
	○		海外ウェディング実務	海外挙式に関するエベンメント業務を学び、幅広いニーズに対応する力を身につけます。特に日本人に人気のあるハワイやグアム等の海外ウェディングの基本を学びます。	2年後期	17	1	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	期
		1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ウェディングプランナー科)平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			就職指導	検定や行事等のスケジュール確認や伝達事項の確認を行う。	2年前期	16	1	○			○	○			
	○		ブライダルデザイン	画像処理やデザインを習得し、オリジナルペーパーアイテムなどを制作する技術や会場のトータルコーディネートを学びます。	2年	66	4	○			○		○		
	○		レストランサービス検定対策Ⅱ	国家資格「レストランサービス技能検定3級」取得を目標に「おもてなしの心」を大切にした接客サービスのノウハウや料飲知識・法律を学びます。(学科試験対策)	2年前期	32	2	○			○		○		
	○		レストランサービス演習Ⅱ	ホテルで働く人のための国家資格「レストランサービス技能検定3級」取得を目標に、適切なサービスを行えるよう、しっかりとした技術を修得いたします。(実技試験対策)	2年	66	4		○		○		○		
	○		ホテル概論Ⅱ	ホテル業に対する正しい知識を持つことを目的とし、組織や業務の特徴とは何かなどといった基本知識の理解を深め、ホテル産業やホテルという業種に対する深い知識を学びます。	2年	33	2	○			○		○		
	○		ホテルセールス	セールスの基本となるコミュニケーションから、必要書類の作成など販売活動について幅広く学びます。また、実践を見据えロールプレイング等も取り入れた授業を展開します。	2年	66	4	○	△		○		○		
	○		ホテルプランニング	ホテル業界における正式な接客マナーやホスピタリティについて、実際の事例を参考に学びます。また、ホテルならではの演出や披露宴会場をまとめるプランナーの動きも学びます。	2年	66	4	△	○		○		○		
	○		英会話	基本的なコミュニケーションはもちろん、実際のウェディングの現場で使うようなシーンを想定した英会話を、ゲームやロールプレイング等を通して楽しく身につけます。	2年	66	4	△	○		○		○		
	○		パーティサービス	披露宴会場やパーティ会場で適切なサービスを行えるよう、ドリンク提供の仕方やサーバーの使い方、お料理の出し下げの仕方等の技術を習得します。	2年	66	4	△	○		○		○		
合計					科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	期
		1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>【履修方法】</p> <p>●講義及び演習科目については15時間から30時間の授業をもって1単位とする。実習及び実技科目については30時間から45時間の授業をもって1単位とする。各科目授業内テスト（実技科目の評価方法は実技・筆記テストを原則実施）の100点満点での素点からの5点法による評定とし、「2」以上でその科目の履修と見なす。</p> <p>【進級・卒業要件】</p> <p>●授業科目の履修を終了した者には、認定のうえ単位を与える。単位の認定については、各科目における試験及び演習・実習の評価によるものとする。単位制学科の卒業認定に必要な単位数は62単位とする。</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	前期16週 後期17週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。